

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全4枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		加賀市ビジョンと加賀市教育ビジョンについて 加賀市ビジョンの策定について 加賀市ビジョン策定委員会が開かれているが、委員会の展開は「企画課からの提案」「委員による意見出し」「その場での修正または次回企画課から修正案を提示」というもので、議論の方法については一般的である。従来の加賀市総合計画とは違うとのことだが、今のままでは従来の加賀市総合計画がコンパクトになった程度の出来上がりが予想される。せっかく委員が集結しているのだから、各専門分野からの活発な意見交換を求めたい。それによってボトムアップの市政となるのではないか。開催回数、議論の手法等、よりアクティブな意見交換の場へと、検討の在り方を刷新する勇気が必要と考えるが、今後の委員会の方針を問う。	
	(2)		加賀市教育ビジョンへの市長の理解について 先日行われた「いしかわ移動知事室」での現地視察において、建設予定の道路の確認と、完成した加賀温泉駅前を案内したということである。 視察の行程を考える際、小学校などの教育現場を訪れるという案はなかったのか。市は、保育・教育を移住の促進にも利用するとのことだが、市長の「加賀市の教育」に関する価値の理解は本当に進んでいるのか。市長は加賀市教育ビジョンの価値をどこに見出しているのか、また、どこに不安を持っているのか。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全4枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
2			公共施設マネジメントについて 加賀市の普通建設は、類似団体と比較して更新整備コストが大きい。市民には「新しいものを造るのが悪い」という印象を持たれがちだが、新規整備費は平均並みである。新規整備は将来負担につながることから、更新整備コストを重視すべきと考える。 その上で、小学校の統廃合については、校舎が老朽化している学校も多く、新規整備を視野に入れつつ、将来負担が最小限になるように、その数も考えていかなばならない。また、もし新規整備になった場合には、特色を出したい思いと更新整備コストを重視したい思いとのバランスを慎重に検討していただきたい。さらに、老朽化に耐えながら授業を受けている児童生徒のことや、保護者の心的負担を考えると、計画が早急に進められることが必要だと考える。 そこで、小学校統廃合に関して、①計画が公表される時期の目安、②統廃合後の跡地利用を検討する際の検討委員選出の採用基準、③統廃合される学校が決定した後の校区外通学の許可に関する基準緩和の可能性について問う。	
3			市の業務量の適正化と人員配置について 市民から市道や公共施設周辺の環境整備に関する御意見をよく頂戴する。ほとんどが、「対応しきれていない」との御意見であり、このことから、人手に対する業務量が多いのではないかと推察する。また、部門ごとの業務量と人員配置のバランスが取れているかも懸念材料である。持続可能な市政のために、業務量の適正化を図り、業務に見合った人員配置とすることは、円滑な業務運営に不可欠ではないか。行政には、市内の環境整備が十分にできる余力を持ってほしい。 そこで、現在の市の業務量と人員配置のバランスについて、どのような課題を把握しているのか。また、業務量と人員配置のバランスを適正化するためにどのような方法で取り組むのか。	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全4枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
4	(1)		市民の健康に関して 小児オンライン医療サービス事業について 小児医療サービスには、既存の「子ども医療電話相談#8000」がある。令和6年度の厚生労働省の#8000 事業の分析では、石川県全体で、「119 番、救急車を勧められた」のが 1.9%、「すぐに医療機関を受診することを勧められた」のが 29.4%、合わせると 31.3%の約3割が即時の医療機関受診を勧められ、残りは「翌日受診」「何かあれば受診」と、緊急性を伴わない、または受診の必要性がない事例である。#8000 利用者の半数が1人目のお子さんの相談で、その主訴は、「ひどく泣く」「泣きやまない」「予防接種後の相談」である。ここから懸念されるのは、①既存の事業ですら周知徹底に課題があるのに、新しい事業は周知徹底されるのか、②看護師が電話で判断できているのに、オンラインの医師をわざわざ活用する必要があるのか、③緊急性の高いものはいずれにせよ南加賀急病センターを受診する、④緊急性の高い事例で手遅れになる可能性をどう保障するか、などである。さらに厚生労働省は、#8000 事業について、「開始時間を早める、回線数を増やすなどの調整」「大型連休時の回線数調整」など、サービス内容の改善についても議論した。その中で、加賀市独自の小児医療サービスは必要不可欠なのか。それより、初めての子育てをする保護者に、「#8000 の確実な周知徹底を図る」「泣きやまないときの対応を教授する」「簡単な手当の方法を指導する」「予防接種の副反応へのリスクと対応の仕方を周知する」など、育児に関する各種事業に、その予算を使ってはどうか。所見を問う。	
	(2)		介護予防事業や介護給付費の抑制について 「令和7年度加賀市各会計決算審査意見書」によれば、「基金を活用し要介護認定者数の低減のための新たな予防事業やサービスを立ち上げ、将来的な介護給付費の抑制に繋げることを検討してほしい」とあったが、現在の予防事業と介護給付費の状況については、どのようなになっているのか。また、この意見書を踏まえてどのような対応方針が考えられるのか。	

発 言 通 告 書 要 旨 （4枚目／全4枚）

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(3)		介護人材不足の対策について 今後深刻な介護人材不足や介護需要の増大が見込まれる中、元気な高齢者を増やすことや、在宅介護の負担軽減を図りながら在宅介護を推奨することも必要になってくるのではないかと考える。 そこで、次の2点について問う。 ①介護人材確保への工夫について、所見を問う。 ②子育て仲間とつながる育児サークルのように、家族の介護をしている人とつながる介護サークルを作ったり、在宅介護のコツを専門職員からレクチャーしてもらえる機会を創出したりするなど、在宅介護の負担を軽減することは介護人材不足の対策になると思うが、所見を問う。	
5			議会おでかけトークにおいて議論となった子育て政策について 先般開催した議会おでかけトークにおいて、「子育て政策」について議論したところ、「子育て政策はサービスが充実していて良いが、もっとバランス良くできないか」という声を頂戴した。これには、「他の事業とのバランス」と「子どもの年齢におけるバランス」と「金銭的補助と人的援助のバランス」の3つが含まれている。子育て支援は加賀市の魅力の一つであるが、例えば、学童保育への保護者負担を見直して学童での遊びや学びの機会保障を手厚くすることで「金銭的補助と人的援助のバランス」を取ったり、子ども3人目出産時の給付金を、小学校入学時と中学校入学時の3回に分けて合計30万円として「子どもの年齢におけるバランス」を取ったりと、工夫の余地があると思う。子育て支援におけるバランスの良い支出に関して、所見を問う。	